

ズボンのすそをまくり、素足で砂浜を歩く参加者たち—白浜町で



早朝の砂浜すかすかしく

第1回素足ウォーク

土産物店主ら 50人が参加 夏以外の集客に期待

白浜

砂の効用を考え、素足ウォークが、白浜町の白良浜海水浴場であり、土産物店主やホテル経営者、行政の観光担当者ら50人が、裸足で早朝の砂浜を歩いた。

白い砂浜が600以上にわたって広がる同海水浴場は、全国屈指の美しさと言われている。しかし、5月の海開きから夏の海水浴シーズンが終わると途端に人けがなくなる。このため、せっかくの財産をもっと活用しようと、白浜温泉旅館協同組合(小竹幸理理事長、25軒)

が、砂浜を素足で歩くことによる医学的な効果などがあればPRしようと呼びかけた。

午前6時、参加者たちはズボンのすそをまくり、波打ち際や足首まで埋まるほどの砂浜を、感触を確かめるように歩いた。足湯の後、「足の裏

は第二の心臓と言われる。すがすがしい気分。足湯も気持ちよかった。末梢の循環にいいと思う」「浜辺を歩いていると癒やされる」などの感想を話し合った。

小竹理事長は「足の指の間に砂が入って刺激され、気持ちよかった。今後、モニターを募り効用を発表していきたい。団塊の世代は健康に関心が深く、集客につながる」と話していた。

【吉野茂毅】